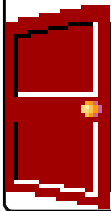


令和5年度《昨年度に続き、今年度も読書活動の楽しさと大切さを伝えたくて》



読書活動への扉を開く！

N o 68

桑村小学校令和5年12月1日

文責 渡邊

「ありがとう」という言葉を大切に!!

『内外教育』（令和5年11月21日号）という冊子のP19に、次のような文章が掲載されていました。

「…実は、教師も日々接している多くの子供たちから教えられていることがたくさんあるはずである。元お茶の水女子大学長の波多野寛治氏の言葉は心に留めておきたいものである。『子供に教えられるということは、口でいうほどやさしい作業ではないのだ。第一、教師の側に教えられたとわかるほどの見識がなければならぬ。第二に、教えられたことをもって、ありがたい、と感ずるだけの謙虚さがなくてはならぬ。こういう二つの態度が教師の側についていないかぎり、子供のどんな言葉も、動作も、教師の目をひかせてはくれないのである。』」

「ありがたい」と感じる謙虚さは、いつまでも持ち続けることは大切ですね。さて、11月30日（木）の朝会で、校長は「ありがとう」の言葉が人を幸せにするという話をしました。6年生の教室に、『きみに ありがとうの おくりもの』（宮野聡子作 教育画劇発行 2020年7月）の絵本があり、この本を題材に全校の子供たちに「ありがとう」の言葉のすばらしさを伝えようと考えたのです。



この絵本の中には、「ねえ、いつも ありがとう」「ありがとうって、きっと、うれしいときに いうんだね」という【6年生の教室にある絵本】文章が載っています。また、「すやすやと、こりすの ねいきが きこえてきました。くまくんは、そっと いいました。『おやすみ。きみの ねがおを みるたびに、ぼくは いちばん うれしいんだよ。そばに いてくれて、ありがとう』」という文章もあります。

この絵本はとても素敵なお話だと思いませんか。私は、思わず目から涙がこぼれそうになりました。

桑村小学校では、今年度も「桑村小感謝の木」がスタートしました。子供たちは、たくさんの友達からいっぱいのおしさをもらっています。そのおしさに対して、「ありがとう」の気持ちを自分の言葉で伝えていく活動です。きっと、たくさんのありがとうの花が咲き誇ると思います。

「幸せな学校」の構築を目指して、これからも子供と学校職員とが力を合わせ、協働で築いていきたいと考えます。どうかこれからも応援をよろしくお願いします。



【桑村小「感謝の木」掲示①】



【桑村小「感謝の木」掲示②】